

熊 建 第 5 9 2 号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

熊野市長 河 上 敢 二



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成 20 年 9 月 1 9 日付け国道企第 3 7 号で依頼のありました標記について、別紙
のとおり回答致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県熊野市

- ・ 国全体の円滑な活動や発展には人やものの働きの根幹となるネットワーク化された高速道路が重要である。しかしながら地方の高速道路の整備は遅れており、都市と地方との地域格差が広がり人やものなどが円滑に流れていない。したがって、経済活動の発展を支えるため、地方部の遅れた高速道路の整備を進めるとともに、アクセク道となる一般国道や主要地方道などの整備を進めることが強く望まれます。
- ・ 平成 16 年度より始まった新臨床研修制度が要因となり、地方において救急医療や高度医療を担っている病院から大学病院医師が引き揚げられ、医師不足が命にかかわる大きな問題になっている。今後、地方と都市間で病院間の連携、統合が必須となってきているが、最も大きな障壁の一つは、病院間の大きな距離であり、高速道路などの道路整備は「命の道」として取り組んでもらいたい重要な課題であります。
- ・ 豪雨、台風、地震などによる災害に対して、安全、安心できる信頼性のある交通ネットワークの構築を進めるとともに法面崩壊対策や橋梁などの耐震対策を推進すること、更には整備率の低い地方において通勤、通学、買い物などの日常生活を支える生活幹線道路の整備を進めていただきたい。
- ・ 道路は、最も情報発信できる場であり、交通安全上の基準や規格を満たす限り、地方の意見を反映した道づくりを進めていただきたい。例えば、ガードレールの形状や色など、更には道路の舗装の色を変えるだけで観光地の道路として、また風景街道として情報発信できる可能性があり、景観づくりに配慮した道路整備を進めていただきたい。
- ・ 日本の市街地の道路は、これまでどちらかといえば車優先型の整備となっており、道路関係の規格や基準などが歩行者優先となっていないものと思われます。今後、中心街など市街地の道路のあり方については、高齢者などの進展を考え歩行者に配慮した道路整備も進めていただきたい。
- ・ 道路特定財源が一般財源化された場合にあって、当地方では道路の整備や既存ストックの維持管理などまだまだその必要性が大きく地域間格差に配慮した真に必要な道路整備を進めることはもとより、地方の創意・工夫を活かした地域づくりのための小規模事業などに対して一括で補助する制度の創設などを進めていただきたい。

○現状 ・土砂崩れ等による幹線道路の通行止めが頻繁に発生しています。 ・高速道路の整備の遅れから産業の停滞がみられます。 ・国道 42 号は急カーブや急勾配等の箇所が多く、災害時の通行に不安があります。 ・国道 169 号の路線全体で急カーブ、狭隘箇所、法面未整備箇所が多く早期整備が期待されています。 ・国道 309 号は飛鳥町・五郷町の生活道路として重要な役割を果たしています。	○課題 日本でも有数の多雨地域であり、幹線道路が急峻な山岳地を通過し、毎年のように台風や豪雨による土砂崩れ等の通行止めが頻繁に発生して、日常生活や経済活動に支障をきたしています。 高速ネットワーク整備の遅れから、観光産業や地場産業の停滞がみられます。 国道 42 号は、近畿自動車道紀勢線のインターチェンジに連結する唯一の主要幹線道路であり、日常生活や産業活動にとって重要な道路ですが、急カーブや急勾配等の箇所が多く、台風や大雨などの異常気象時における通行に不安があります。 国道 169 号は、関西圏への交流と物流の唯一の幹線道路であり、ますます、重要性が増しています。奈良県側では最大の難所であった伯母谷工区が、三重県側では高尾谷工区が完成し、大型自動車による観光や物資の輸送が容易になりましたが、路線全体では急カーブ、狭隘箇所、法面未整備箇所が多く残されており、集客と地域経済活性化のため早期整備が期待されています。 国道 309 号は、飛鳥町・五郷町の生活道路として、また国道 42 号と国道 169 号を連結する道路として重要な役割を果たし
--	---

・国道 311 号の急カーブや狭隘区間などの整備が急がれています。 ・市内の県道は、狭隘区間と急カーブが多くあります。 ・市道の改良率は、三重県の平均を大きく下回り、狭隘道路の改良と危険箇所の整備が必要です。	ています。 国道 311 号は、海岸地域において日常生活や水産物の輸送などで重要な道路であるとともに、道路沿いには熊野古道、徐福の宮、楯ヶ崎など全国に誇れる魅力的な観光資源を豊富に有しており、観光バスなどを利用した集客交流になくてはならない道路です。尾鷲市曾根・梶賀バイパスの完成により全線が開通し、熊野市側の急カーブや狭隘区間などの整備が急がれています。また、山間地域においても大型車両が通行困難な区間である和歌山県及び奈良県地内（和歌山県新宮市熊野川町河根～奈良県十津川村竹筒～熊野川町九重）は、和歌山県田辺市方面との交流に不可欠な路線であり整備促進が求められています。 主要地方道をはじめとする県道は急峻な地形を通過していることもあり、急勾配、急カーブ、狭隘箇所が多くあります。このような車両の対向が困難な場所は、救急や消防業務に支障をきたし、地域住民の日常生活や経済活動にも影響を与えています。国道から地域へのアクセスルートとして、また、地域住民の安全・安心な生活の確保、産業の発展、交流・定住人口の増加のため整備促進が必要です。 市道の改良率は平成 19 年度末で約 32%となっております。対面通行や緊急車両の進入が困難な道路や危険箇所の整備、橋梁の耐震化並びに既存ストックの長寿命化対策が必要です。
--	--

②-2 地域の目指すべき将来像

三重県熊野市

本市がめざす将来像は、温暖な気候、豊かな自然や歴史・文化、海・山・川の恵みなど優れた地域資源を活かし、独創性のある産業が発展しており、多くの若者が元気に仕事をし、子供たちは自然の中で元気に遊び、高齢者は健康で生きがいを持って安心して暮らし、美しく快適な地域でスポーツ・文化芸術活動などが活発に行われ、誰もが心豊かに生活できる活力にあふれたゆとりと潤いのあるまちです。

そして、市民自らが力をあわせて、産業をはじめ、保健・医療・福祉、教育・文化、生活環境など、あらゆる分野で主体的にまちを創り上げることに参加しており、住む地域に誇りと愛着を感じて、誰もがいきいきと光り輝いて活躍しているまちです。

このようなまちを、創り上げていくために「豊かな自然と歴史の中で人がかがやく、活力と潤いのあるまち・熊野」を目指しています。

道路は、幹線道路が進み、都市からのアクセス性の向上と生活圏の拡大により、観光や産業面の交流・連携が進んでします。また、市民の地域防災や福祉、生活環境などの日常生活を支える基盤として、市道の整備が進み、地域コミュニティ活動や若者定住、企業誘致が促進されています。さらに高齢者など交通弱者に対応した安全・快適で、人にやさしく、災害に強い道づくりが進んでいます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

三重県熊野市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域観光資源を活かした集客交流による中心市街の活性化及び生活環境の向上	熊野古道、鬼ヶ城などをはじめとする地域観光資源を活かした集客交流や熊野古道をイメージできる景観等とし、まちの魅力の向上を図り来訪者をまちなかに誘導する。また、道路などを整備改善することにより地域住民の生活環境の向上が図られます。	熊野古道が世界遺産に登録されたことによりこの地域を訪れる人が増加しているが一時的なものではなく何度も熊野に訪れたいと思えるまちの魅力づくりや子供から高齢者が安心して安全に暮らせるユニバーサルデザインに配慮した「まちの顔・まち並みづくり」ができます。	